

有明の丘研修について

1. 研修開催スケジュール、カリキュラム
2. 令和5年度リニューアルの状況
3. 第1期の応募・修了状況
4. 受講目的等のアンケート調査
5. 多肢選択テスト作成マニュアルの改善

●カリキュラム

① 「防災基礎」 コースコーディネーター ◇ 牛山 素行(静岡大学) ◇	② 「災害への備え」 コースコーディネーター ◇ 丸谷 浩明(東北大学) ◇	③ 「警報避難」 コースコーディネーター ◇ 井ノ口 宗成(富山大学) ◇	④ 「応急活動・資源管理」 コースコーディネーター ◇ 松永 正大(元 全国物流ネットワーク協会) ◇	⑤ 「被災者支援」 コースコーディネーター ◇ 田村 圭子(新潟大学) ◇	⑥ 「復旧・復興」 コースコーディネーター ◇ 加藤 孝明(東京大学) ◇
<p>必修</p> <p>1 概論 防災・危機管理の基本的な考え方、我が国の自特性、近年の災害事例について学ぶ。</p> <p>2 風水害 風水害発生メカニズムと、風水害災害による被害の概要について学ぶ。</p> <p>3 地域の脆弱性と被害の実態 自然災害による人的被害の実態を理解し、地域ごとの災害特性やハザードマップの読み方、風水害、地震のハード対策を学ぶ。</p> <p>4 災害法体系・防災計画・災害への備え 防災活動全体の流れや災害関連法の体系、防災関連計画、政府初動体制、防災人材育成、地区防災計画、個別避難計画等の概要を学ぶ。</p> <p>5 災害から命を守る 「災害から命を守る」ための基本的な知識として、防災気象情報の概要や、避難情報の意味や内容を学ぶ。</p> <p>6 被災者の応急救助 災害救助法の概要を理解し、被災者のいのちを守るために行う活動の概要や事前に備えておくべきことを学ぶ。</p> <p>7 災害から暮らしを守る 避難所の開設・運営、災害廃棄物処理、被害認定審査、災害ケースマネジメント等、行政が行う手続きの基本を学ぶ。</p> <p>8 災害時の応援・受援体制 災害時に行う応援受援に係る制度、受援体制の構築および受援計画の作成、応急対策職員派遣制度等の概要について学ぶ。</p> <p>9 災害から回復する 被災者生活再建支援制度、災害弔慰金・災害援護資金、激甚災害制度、大規模災害からの復旧・復興、インフラ復旧の基本を学ぶ。</p> <p>10 多様な視点からの災害対応 地域が多様な主体が避難所運営に係ることの意義や、災害時における男女共同参画の必要性等について学ぶ。</p>	<p>1 「災害への備え」総論 自助・共助・公助による災害への備えの基本的な考え方や対策を学ぶ。</p> <p>2 地域防災計画・地区防災計画 地域防災計画、地区防災計画を、どのように災害への備えに向けて活用するかを学ぶ。</p> <p>3 防災教育・災害教訓の伝承 地域に根差した防災活動を進めるための防災教育および災害教訓の伝承について学ぶ。</p> <p>4 企業防災 企業が災害時に果たすべき役割を認識し、企業と行政が連携した防災活動について学ぶ。</p> <p>5 行政のBCP、BCM 行政におけるBCP、BCMの意味や決定のポイントについて学ぶ。</p> <p>6 住民啓発 住民向けの防災の啓発の基本的な事項および具体例について学ぶ。</p> <p>7 地域の自主的な防災活動 住民の自主防災組織の意義、役割と行政による推進策について学ぶ。</p> <p>8 災害ボランティア 災害ボランティアの意義、役割と行政との連携について学ぶ。</p> <p>9 「災害への備え」ワークショップ 【実務担当】災害への備えの推進方策を災害対応組織の班員レベルで議論し、自らの組織での具体的な行動への反映を考える。 【一般管理】災害への備えの推進方策を災害対応組織の班長などのレベルで議論し、対応組織の管理業務への反映を考える。</p>	<p>1 警報避難総論 警報避難対策の基本的な考え方と事前対策を学ぶ。</p> <p>2 警報等の種類と内容 警報等の種類と内容、伝達について学ぶ。</p> <p>3 避難情報の発令判断・伝達等 避難情報の判断と伝達方法について学ぶ。</p> <p>4 土砂災害における警報と避難 土砂災害における警報と避難の実務について学ぶ。</p> <p>5 風水害における警報と避難 風水害における警報と避難の実務について学ぶ。</p> <p>6 南海トラフ地震臨時情報 地震災害の警報と避難について学ぶ。</p> <p>7 個別避難行動の支援と計画 円滑かつ迅速な避難を実現するための個別避難計画の役割と避難行動支援の考え方を学ぶ。</p> <p>8 【実務担当】 風水害を対象として避難判断を支える警報情報や各種情報の処理の流れを演習形式で学ぶ。 【一般管理】 風水害を対象として警報情報の活用と避難にかかる意思決定の流れを演習形式で学ぶ。</p>	<p>1 応急活動・資源管理総論 応急活動の流れと資源管理に関する基本的な考え方について学ぶ。</p> <p>2 初動対応における国との連携 国における初動対応の内容とその連携のあり方について学ぶ。</p> <p>3 地方公共団体間の相互応援と受援体制 災害時の行政機関の間で行われる応援受援の仕組みと受援体制について学ぶ。</p> <p>4 災害廃棄物処理 被災地における資源確保の例として、災害廃棄物の撤去・処理の進め方と留意点を事例に基づき学ぶ。</p> <p>5 救護物資の調達・救護物資の輸配送 救護物資の調達に関する実務と課題、また、救護物資の輸配送に関する実務と課題を学ぶ。</p> <p>6 活動拠点・環境の確保 応急活動を行うために必要となる活動拠点や通信サービス等の確保について学ぶ。</p> <p>7 救護物資ロジスティクス演習(ワーク) 救護物資の調達から輸送・保管・配布における留意点を学ぶ。</p> <p>8 【実務担当】 救護物資ロジスティクス演習/全体討論 救護物資の調達から輸送・保管・配布における留意点などを学ぶ。 【一般管理】 風水害を対象として避難判断を支える警報情報や各種情報の処理の流れを演習形式で学ぶ。</p> <p>9 資源管理演習 風水害を対象として避難判断を支える警報情報や各種情報の処理の流れを演習形式で学ぶ。</p>	<p>1 被災者支援総論 被災者支援の実態と被災者支援の全体像を学ぶ。</p> <p>2 被災者支援生活再建支援法 被災者支援における災害救助法と生活再建支援法の位置づけや、手続き、適用事例を学ぶ。</p> <p>3 避難所のライフサイクル 避難所のライフサイクルを学ぶ。</p> <p>4 避難所運営の実務 事例を基に避難所運営の実務を学ぶ。</p> <p>5 要配慮者をほしめとす避難者の避難生活支援 災害時要配慮者を始めとする避難者への支援対策を学ぶ。</p> <p>6 医療による被災者支援 医療チームの活動と医療支援の役割やまた医療による被災者支援を学ぶ。</p> <p>7 多様な主体による被災者支援/被災者支援の個別課題 専門機能における被災者支援と被災者支援の個別課題を学ぶ。</p> <p>8 生活再建支援業務 家屋の被害認定から罹災証明の発行と罹災証明を基にした一連の生活再建支援業務を学ぶ。</p> <p>9 個別避難計画の作成 令和3年3月の災害対策基本法において、市町村に作成が努力義務とされた個別避難計画作成のステップとその機能を学ぶ。</p> <p>10 【実務担当】 災害時のトイ問題/全体討論 避難所のライフサイクルを演習形式で体験し、避難所運営業務の実務を学ぶ。 【一般管理】 避難所の運営業務/全体討論 避難所のライフサイクルを演習形式で体験し、避難所運営業務の管理運営を学ぶ。</p>	<p>1 復旧・復興総論 災害からの復旧・復興の概念、行政・被災者等の取り組みや、生活、産業、社会、市街地の復興プロセスとその全体像について学ぶ。</p> <p>2 公共基盤の復旧(基盤復興Ⅰ) 被災した公共基盤の復旧・再建の理念とその支援制度、対応業務の進め方について、事例を踏まえて学ぶ。</p> <p>3 仮設住宅(生活復興Ⅰ) 災害救助法による応急仮設住宅の提供の取組みを、事例に基づき学ぶ。</p> <p>4 コミュニティ再生(社会復興) 地域社会の再生(つながり・コミュニティの継続と活性化)について事例を通して学ぶ。</p> <p>5 市街地の復興まちなづくり(基盤復興Ⅱ) 市街地地区の復興とまちづくりの意義と課題を事例に基づいて学ぶ。</p> <p>6 住まいの再建(生活復興Ⅱ) 被災者個人の生活再生とその発着点を再整備する復興まちづくりの意義と課題を事例に基づいて学ぶ。</p> <p>7 地域産業の復興と雇用確保(産業復興) 地域社会の活力と被災者の雇用確保のための産業復興について事例に基づいて学ぶ。</p> <p>8 復興街づくりイメージング 現行の体制、制度では対応できない課題を明確化し、被災後の復興期に対応できるような仕組みを準備し復興まちづくりに対応化の人材を育成する。</p>
<p>11 地震・津波災害のハザード 地震・津波発生メカニズムと、その災害の被害、地震・津波の観測・予測情報、防災対策の基本を学ぶ。</p> <p>12 火山災害のハザード 主な火山の噴火現象、火山噴火の観測・予測情報、火山災害の被害や対策の基本を学ぶ。</p> <p>13 大規模地震対策① 首都直下地震の対策 首都直下地震を対象に、その被害想定等や、「緊急対策推進基本計画」及び「具体計画」の概要について学ぶ。</p> <p>14 大規模地震対策② 南海トラフ地震の対策 南海トラフ地震を対象に、その被害想定等や、「緊急対策推進基本計画」及び「具体計画」の概要について学ぶ。</p> <p>15 大規模地震対策③ 日本海海溝・千島海溝周辺型地震の対策 日本海海溝・千島海溝周辺型地震を対象に、その被害想定等や、「防災対策推進基本計画」及び「具体計画」の概要について学ぶ。</p> <p>16 大規模地震対策④ 東日本大震災の教訓 東日本大震災の復興過程で明らかとなった主要な課題や困難、そこから得られた教訓について学ぶ。</p>	<p>⑦ 「指揮統制」 コースコーディネーター ◇ 林 春男(京都大学) ◇</p> <p>1 指揮統制総論 災害対策本部組織を統制していくための理論と基本構造を学ぶ。</p> <p>2 指揮統制の世界標準 世界標準における危機対応組織の仕組みを学び、リーダーに求められる4つの役割について学ぶ。</p> <p>3 指揮統制の現状 大規模災害を経験したトップが指揮統制の本質を語る。</p> <p>4 日本社会に適した指揮統制のあり方 危機対応の世界標準に則して災害対策本部の統制のあり方を学ぶ。</p> <p>5 リーダーシップのあり方 リーダーシップの考え方と指揮統制制を行ったときの要求事項を学ぶ。</p> <p>6 参謀にとつての災害対策本部運営 危機対応組織の参謀がどのようにトップを補佐しながら災害対策本部を運営していくのかについて学ぶ。</p> <p>7 災害広報(記者会見演習) 災害広報の事例を踏まえ、地方公共団体の長や幹部は、メディアを通して被災者等とどう向き合い、どう語るのかを演習を通して学ぶ。</p> <p>8 全体討論 防災力アップのため、指揮統制について学んだことを、受講者のそれぞれの組織でどのように反映させるのかを考える。</p>	<p>⑧ 「対策立案」 コースコーディネーター ◇ 林 春男(京都大学) ◇</p> <p>1 対策立案総論 災害対応における対策立案の考え方と情報統括、活動サイクル、体制を学ぶ。</p> <p>2 指揮統制の世界標準 世界標準における危機対応組織の仕組みを学び、リーダーに求められる4つの役割について学ぶ。</p> <p>3 災害対策本部が行う対策立案プロセス 「当面の対応計画(インシデント・アクション・プラン)」の果たすべき役割と基本的な構造、立案のプロセスについて学ぶ。</p> <p>4 地図による状況認識の統一とISUTの試み GISによる統合された情報提供の必要性とISUTの有効性について学ぶ。</p> <p>5 応急期の政府支援 災害直後には各府県から提供される具体的な支援の内容について学ぶ。</p> <p>6 効果的な災害対応計画マニュアルの作成方法 災害対応計画の果たすべき役割と基本的な構造、災害対応マニュアルの作成について、災害対応の事例を基に学ぶ。</p> <p>7 災害対策本部運営演習 災害発生後の限られた情報の中で、状況を推測し、対応方針を検討し、計画を立案し、活動を調整しながら、災害対策本部会議において対策を決定する手法を演習を通して学ぶ。</p> <p>8 全体討論 災害対応マネジメントにおける計画立案について学んだことを、災害対策本部運営がどのように反映させるのかを考える。</p>	<p>⑨ 「人材育成」 コースコーディネーター ◇ 黒田 洋司(消防防災科学センター) ◇</p> <p>1 人材育成総論 人材育成の必要性や戦略・法律・計画を学ぶ。</p> <p>2 訓練・研修の実態 国や地方公共団体等が実際に実施している訓練や研修の実例を学ぶ。</p> <p>3 訓練・研修企画手法 防災訓練・研修を企画する際のポイントを学ぶ。</p> <p>4 訓練企画運営実践Ⅰ(状況付与型図上演習) 訓練手法のうち状況付与型図上演習の一つである、災害対策本部運営訓練を経験すると共に、様々なシナリオを用いた状況付与型図上演習の考え方を学ぶ。</p> <p>5 地域防災リーダーの育成 地域における防災リーダーの育成の意義と研修の企画、実施手法を学ぶ。</p> <p>6 訓練企画運営実践Ⅱ(討議型図上演習) 訓練手法のうち討議型図上演習の一つである災害工シナリオを演習を体験すると共に、様々な素材を用いた討議型図上演習の考え方を学ぶ。</p> <p>7 人材育成プログラム作成演習 人材育成プログラムの作成手法や留意点について学ぶ。</p> <p>8 人材育成に関する情報交換会 受講生同士が講師陣と共に情報交換しながら交流を図る。</p>	<p>⑩ 「総合監理」 コースコーディネーター ◇ 若田 孝仁(静岡大学) ◇</p> <p>1 総合防災政策 総合的に防災政策を推進していくことのための基本的な考え方を予防策から応急対策への流れに沿って学ぶ。</p> <p>2 総合的な被害抑止施策の実施 水害や土砂災害、地震などの被害を抑止するための総合的な対策について学ぶ。</p> <p>3 リスク評価に基づく災害対応の基礎 防災アクションプランのサイクルについて学ぶ。</p> <p>4 応急対策の実態 災害対策本部における重要業務と応急活動の実態について学ぶ。</p> <p>5 大規模災害の検証と対応 大規模災害がどのように検証され、どのような対応方針が示されているのかを学び、今後の災害への反映を考える。</p> <p>6 災害対策本部体制 災害対策本部体制を構築するために必要な体制、空間レイアウトなど事前に準備すべきことを学び、災害対策本部運営の流れと心構えを学ぶ。</p> <p>7 全体討論 総合防災政策立案について学んだことを、受講者がそれぞれの組織でどのように反映させるのかを考える。</p>	

2. 令和5年度リニューアルの状況

●令和5年度 第1期のリニューアルに関する変更点の概要

① 研修実施形態の変更

- ・ オンデマンド形式の座学と集合形式（対面）の演習を基本の研修形態とする。

② 防災基礎コースの完全オンデマンド化

- ・ 防災基礎コースは演習を行わず、オンデマンドの座学のみとする。
- ・ 定員は、年間120名から600名に増員する。

③ 災害対策5コースでの職位別演習の実施

- ・ 災害対策5コース（②災害への備え、③警報避難、④応急活動・資源管理、⑤被災者支援、⑥復旧・復興）では、「実務担当」「一般管理」の2種類の職位別に受講者を募集し、職位別に分かれた演習を実施する。
- ・ 定員は、各期60名から各期各職位別60名（計120名）に増員する。

④ 職位別/地域防災マネージャーパッケージの実装

- ・ 実務担当／一般管理／上級管理の職位に応じたコースを効率的に学習できるよう、複数コースをまとめて受講できる「職位別パッケージ」を設ける。
- ・ 1年（2期）で防災基礎を除く9コースをまとめて受講することができる「地域防災マネージャーパッケージ」を設ける。

⑤ 人的ネットワーク構築の取組み

- ・ 対面研修の実施時に、自主研修、全体交流会をカリキュラムに組み込む。
- ・ オンライン掲示板、オープニング交流会、自由交流会の交流の場を設ける。

防災基礎

防災基礎（完全オンデマンド・全コースで受講必須）

座学（オンデマンド形式）

災害対策（オペレーション）

組織運営（マネジメント）

災害への備え

警報避難

応急活動資源管理

被災者支援

復旧復興

指揮統制

対策立案

人材育成

総合監理

概論

各論

各論

各論

各論

各論

概論

各論

各論

各論

各論

各論

概論

各論

各論

各論

各論

各論

概論

各論

各論

各論

各論

各論

概論

各論

各論

各論

各論

各論

概論

各論

各論

各論

各論

各論

概論

各論

各論

各論

各論

各論

概論

各論

各論

各論

各論

各論

概論

各論

各論

各論

各論

各論

演習

演習

演習

演習

演習

演習

演習

演習

演習

演習

演習

演習

演習

演習

●職位別パッケージ（実務担当向け・一般管理向け、上級管理向け）

凡例（色）

実務担当

一般管理

上級管理

座学	演習	座学	演習	座学	演習	座学	演習	座学	演習	座学	演習	座学	演習	座学	演習	座学	演習
座学	演習	座学	演習	座学	演習	座学	演習	座学	演習	座学	演習	座学	演習	座学	演習	座学	演習
座学	演習	座学	演習	座学	演習	座学	演習	座学	演習	座学	演習	座学	演習	座学	演習	座学	演習

●地域防災マネージャーパッケージ

対面演習、自主研修、全体交流会、オンライン掲示板、オープニング交流会、自由交流会

① 研修実施形態の変更

● リニューアル内容

令和2年度～令和4年度までオンライン形式で実施していた研修を、対面での演習を交えた実施形態に変更を行った。

項目	リニューアル内容
対面演習	Web会議ツールを用いたオンライン形式の演習から有明の丘会場に集まって対面形式で実施する演習に変更した。 講義（座学）はこれまでと同様にオンデマンド形式で実施。
交流の機会・場	研修会場で交流できる機会・場として、自主研修、全体交流、自由交流会を実施した（⑤にて説明）。

●各コースの対面演習の実施内容

各コースの対面演習の実施内容は下記のとおり。

災害対策5コースの実施内容

コース名	演習内容（概要）	
災害への備え	実務	コースで学びたかったことと今後実施したい災害への備えの対策を議論した。実務担当で議論する対策は、「有効そう」「面白そう」なアイデアを中心に議論する。
	一般	内容は同上。一般管理で議論する対策は、組織化、組織連携など災害対策を強化するための対策を中心に、単なる取組みだけでなく、みんなを巻き込める対策を議論する。
警報避難	実務	線状降水帯や台風の発生状況下における、想定される状況の推移や他機関との調整、情報処理をグループで検討した。演習の内容はいずれの職位でも同一の内容を実施したが講師からの講評において、実務担当、一般管理の立場に合わせた内容をコメントした。
	一般	
応急活動・資源管理	実務	災害時における救援物資のロジスティクスをロールプレイング形式で体験する演習を実施した。
	一般	災害時における人的応援の調整をロールプレイング形式で体験する演習を実施した。
被災者支援	実務	避難所運営に関わる実務者として災害時のトイレ問題について演習を通じて学ぶ。
	一般	避難所運営業務総括責任者として避難所運営業務における対策項目と業務の流れを演習を通じて学ぶ
	共通	最初に職位合同で講義を受け、職位別の演習を実施した後、ひとつの会場に集まって演習を実施
復旧・復興	実務	「復興まちづくりイメージトレーニング」を通じて復興における課題を明確にし、「生活再建」と「市街地復興」の両方の視点から復興の在り方を学ぶ。 (第1期は実務担当・一般管理の合同で実施)
	一般	

組織運営4コースの実施内容

コース名	演習内容（概要）
指揮統制	災害広報の事例を踏まえ、地方公共団体の長や幹部は、メディアを通して被災者等にどう向き合い、どう語るのかを演習を通して学ぶ。
対策立案	災害発生後の限られた情報の中で状況を推測し、対応方針を検討し、計画を立案し、活動を調整しながら、災害対策本部会議において対策を決定する手法を演習を通して学ぶ。
人材育成	訓練手法のうち討議型図上演習の一つである災害エスノグラフィー演習を体験すると共に、様々な素材を用いた討議型図上演習の考え方を学ぶ。 人材育成プログラムの作成手法や留意点を演習を通じて学ぶ。
総合監理	災害対策本部体制を構築するために必要な体制、空間レイアウトなど事前に準備すべきことを学び、災害対策本部運営の流れと心構えを学ぶ。

● 対面演習の様子

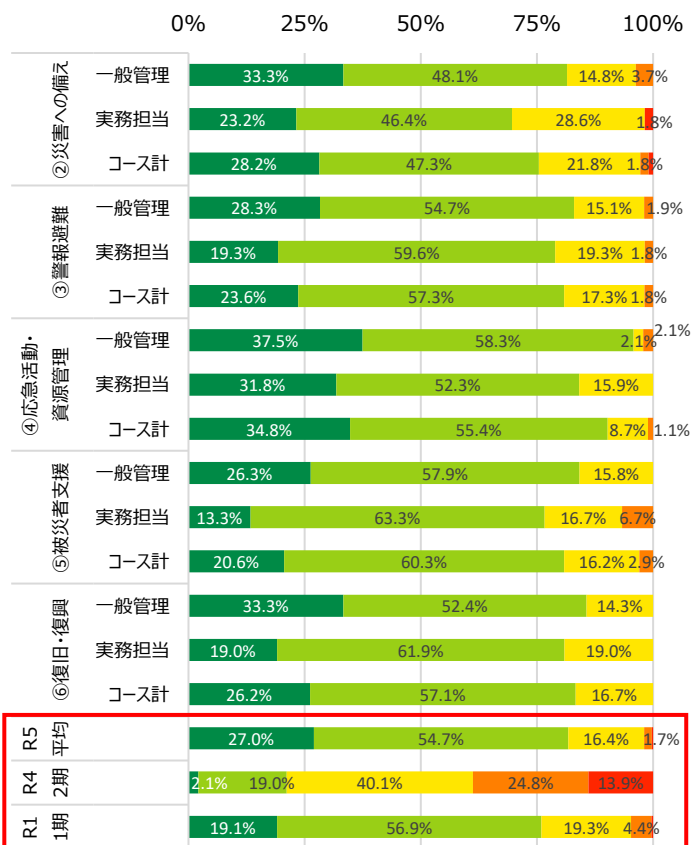


● 人的交流に関するアンケート結果（速報）

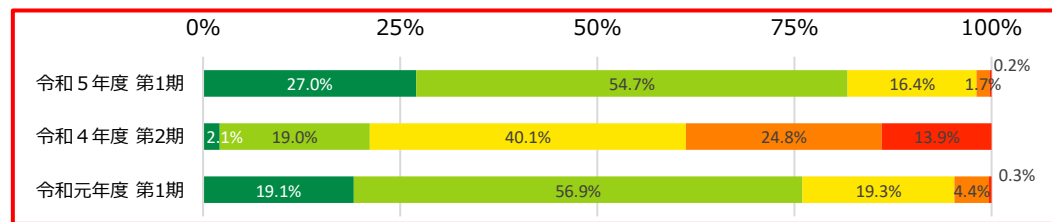
10月26日時点のアンケート結果（②災害への備え～⑥復旧・復興が対象）から、職位別アンケートについての項目を集計した。（最終的な集計は第4回検討会にて報告）。

Q 人的ネットワークを作ることができましたか？

➡ 結果：対面で実施していた令和元年度第1期とほぼ同じ水準まで結果が改善された。対面での実施の効果が大きく表れているものと考えられる。



これまでの実施状況との比較抜粋



● 改善に関する意見（自由回答記述より抜粋）

- より多くの意見交換の場・機会を設けて欲しい(12人)
- 研修後に交流できる(掲示板、SNS、メーリングリスト等)仕組みがあると良い(10人)
- 交流の場・機会を増やすため数日間の対面研修を実施して欲しい(7人)
- 研修後のフォローアップ研修を実施してはどうか(6人)
- 組織別(国、都道府県、市町村)での意見交換の場を設けてはどうか。(4人)
- 昼食時間を交流の時間(ランチミーティング、名刺交換等)に活用してはどうか(4人)
- 事前に自己紹介プロフィールを共有できるようにしてはどうか。(3人)
- 班メンバーを入替え、交流できる人を増やしてはどうか(2人)

■ 非常にそう思う ■ そう思う ■ どちらともいえない
■ あまりそう思わない ■ そう思わない

● 令和5年度 第1期におけるリニューアルの現状と今後の対応

(対面演習)

- 対面演習の満足度平均は、91.4点（R4第2期：88.1）であり、**オンラインで実施した令和4年度第2期に比べて高い傾向**にある。
- 会場では活発な交流が見られ、**人的ネットワークに関するアンケートでは、最後に対面で実施した令和元年度第2期とほぼ同じ水準にまで改善**している。
- そのため対面演習は、これまでのオンライン演習に比べ効果的な演習が実施できているのではないかと考えられる。
- 本年度からの対面演習化に伴い、生じた課題等をしっかりと捉えて改善を進める必要がある。

➡ 対応：アンケートによる追加調査の実施

- ・ 現状のアンケート項目では捉え切れていない対面演習の実施に関する事項について、追加のアンケート調査を行ってはどうか。

<主な内容>

募集時期、募集要項の分かりやすさ、対面参加の支障となった要因等、実施時期／連日設定／実施時間（半日） など

② 防災基礎コースの完全オンデマンド化

● リニューアル内容

防災基礎コースの完全オンデマンド化に伴い、下記の内容のリニューアルを実施した。

項目	リニューアル内容
カリキュラム	オンデマンド化と講義時間の最適化のため令和4年度までのカリキュラムをベースに見直し、 カリキュラムを一新 した。
受講定員数	定員を年間120名（各期60名）から 年間600名に増員 した。
受講期間	受講は 通年の受講（令和6年3月まで）を可能 とした。
他コース受講の必須条件化	他コースの受講条件として「防災基礎コースの修了」を必須の条件 とした。本年度は移行期間のため他コースとの同時受講を認めた。
多肢選択テスト	オンデマンドでの学習状況を確認するため、「 多肢選択 」による出題方法を採用した。

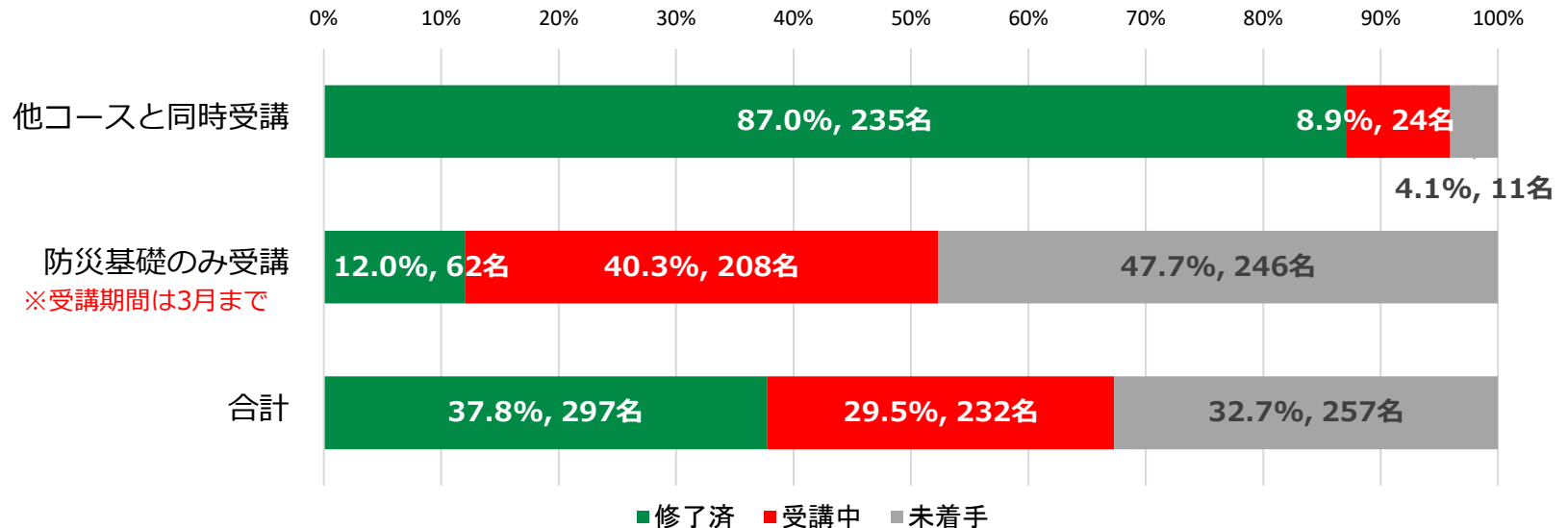
● 防災基礎コースの受講状況

現時点（10月25日時点）の修了状況を受講形態別に集計した。

集計結果

- 「他コースと同時受講」は、「防災基礎の修了」を修了条件に含んでいるため9割近い受講者が修了済となっている。
- 「防災基礎のみ受講」は、受講期間を3月までとしているため、自己のスケジュールに合わせて受講を進めているものと考えられる。

2023.10.26集計時点



● 防災基礎コースの講義構成・時間

防災基礎コースの単元毎の概要、講義時間は下表のとおり。

No	単元名	概要	講義時間
1 必修	概論	防災・危機管理の基本的な考え方や、我が国の自然特性、近年の災害事例について学ぶ。	64分
2 必修	風水害	風水害発生メカニズムと、風水害災害による被害の概要について学ぶ。	66分
3 必修	地域の脆弱性と被害の実態	自然災害による人的被害の実態を理解し、地域ごとの災害特性やハザードマップの読み方、風水害、地震のハード対策を学ぶ。	83分
4 必修	災害法体系・防災計画・災害への備え	防災活動全体の流れや災害関連法の体系、防災関連計画、政府の初動体制、防災人材育成、地区防災計画、個別避難計画等の概要を学ぶ。	87分
5 必修	災害から命を守る	「災害から命を守る」ための基本的な知識として、防災気象情報の概要や、避難情報の意味や内容を学ぶ。	67分
6 必修	被災者の応急救助	災害救助法の概要を理解し、被災者のいのちを守るために行う活動の概要や事前に備えておくべきことを学ぶ。	61分
7 必修	災害から暮らしを守る	避難所の開設・運営、災害廃棄物処理、被害認定調査、災害ケースマネジメント等、行政が行う手続きの基本を学ぶ。	63分
8 必修	災害時の応援・受援体制	災害時に行う応援受援に係る制度、受援体制の構築および受援計画の作成、応急対策職員派遣制度等の概要について学ぶ。	29分
9 必修	災害から回復する	被災者生活再建支援制度、災害弔慰金・災害援護資金、激甚災害制度、大規模災害からの復旧・復興、インフラ復旧の基本を学ぶ。	60分
10 必修	多様な視点からの災害対応	地域の多様な主体が避難所運営に係ることの意義や、災害時における男女共同参画の必要性等について学ぶ。	29分
必修単元合計			609分
11 選択	地震・津波災害のハザード	地震・津波発生メカニズムと、その災害の被害、地震・津波の観測・予測情報、防災対策の基本を学ぶ。	63分
12 選択	火山災害のハザード	主な火山の噴火現象、火山噴火の観測・予測情報、火山災害の被害や対策の基本を学ぶ。	77分
13 選択	大規模地震対策① 首都直下地震の対策	首都直下地震を対象に、その被害想定等や、「緊急対策推進基本計画」及び「具体計画」の概要について学ぶ。	36分
14 選択	大規模地震対策② 南海トラフ地震の対策	南海トラフ地震を対象に、その被害想定等や、「緊急対策推進基本計画」及び「具体計画」の概要について学ぶ。	31分
15 選択	大規模地震対策③ 日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震の対策	日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震を対象に、その被害想定等や、「防災対策推進基本計画」及び「具体計画」の概要について学ぶ。	30分
16 選択	大規模地震対策④ 東日本大震災の教訓	東日本大震災の復興過程で明らかとなった主たる課題や困難、そこから得られた教訓について学ぶ。	16分
選択単元合計			253分
必修+選択単元合計			862分
令和4年度 第2期（講義時間はオンデマンド講義のみ）			478分

● 令和5年度 第1期におけるリニューアルの現状と今後の対応

(カリキュラム)

- 一新されたカリキュラムの満足度平均は、**87.3点 (R4 第2期 : 88.3)** であり、例年と同水準の講義を提供できている。
- 講義時間が**必修部分で600分 (R4 第2期 : 478分)** を超えており、受講生の負担を考慮する必要があると考えられる。

➡ 対応 : アンケートに基づきカリキュラムを適正化

- ・ アンケートから単元構成、15分1区分の構成、内容等に関するご意見抽出し、カリキュラムの適正化を図る。
- ・ 必要に応じて追加のアンケート調査を行い、改善に資する意見を募る。

(受講状況)

- 他コースと同時受講された受講生は、「**防災基礎コースの修了**」を他コースの修了条件としたため、**多くの受講生が修了済**となっている。
- 通年の受講を可能としたことにより、受講形態によって修了率に大きな差が生じている。防災基礎のみ受講の修了率は現時点で12%。

➡ 対応 : 受講期間内の修了を促す

- ・ 受講期間内に忘れずに修了できるよう、修了を促す案内を通知する。
- ・ 次年度以降の有明の丘研修受講に必須条件であることを強調する。

③ 災害対策5コースでの職位別演習の実施

● リニューアル内容

令和6年度に予定しているリニューアルでは、災害対策5コース（災害への備え、警報避難、応急活動・資源管理、被災者支援、復旧・復興）において職位別（実務担当／一般管理）の座学・演習を提供することとしている。令和5年度は段階的なリニューアルとして、下記の取組みを実施した。

項目	リニューアル内容
職位別の募集	災害対策5コースにおいて、 2種類の職位別（実務担当／一般管理）の受講者を募集した。
受講定員数	定員を各コース年間120名（各期60名）から 年間240名(各期各職位60名,計120名)に増員した。
職位別演習	職位に合った学習内容を提供するため、 職位別（実務担当／一般管理）の演習を実施した。

●各コースの職位別演習の実施内容

各コースで実施した職位別演習の実施内容は以下のとおり。

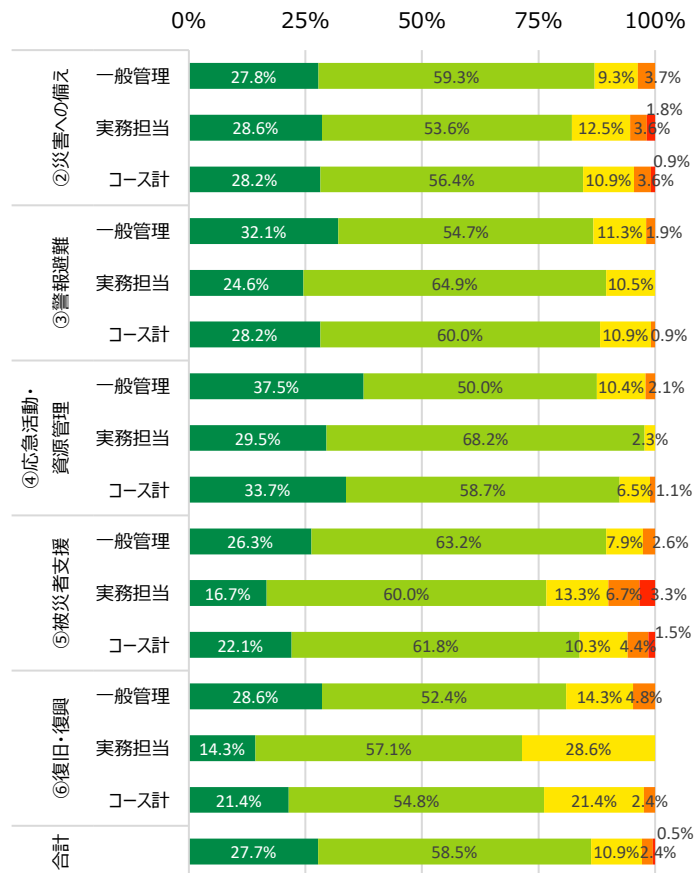
P7の再掲

コース名	演習内容（概要）	
災害への備え	実務	コースで学びたかったことと今後実施したい災害への備えの対策を議論した。実務担当で議論する対策は、「有効そう」「面白そう」なアイデアを中心に議論する。
	一般	内容は同上。一般管理で議論する対策は、組織化、組織連携など災害対策を強化するための対策を中心に、単なる取組みだけでなく、みんなを巻き込める対策を議論する。
警報避難	実務	線状降水帯や台風の発生状況下における、想定される状況の推移や他機関との調整、情報処理をグループで検討した。演習の内容はいずれの職位でも同一の内容を実施したが講師からの講評において、実務担当、一般管理の立場に合わせた内容をコメントした。
	一般	
応急活動・資源管理	実務	災害時における救援物資のロジスティクスをロールプレイング形式で体験する演習を実施した。
	一般	災害時における人的応援の調整をロールプレイング形式で体験する演習を実施した。
被災者支援	実務	避難所運営に関わる実務者として災害時のトイレ問題について演習を通じて学ぶ。
	一般	避難所運営業務総括責任者として避難所運営業務における対策項目と業務の流れを演習を通じて学ぶ
	共通	最初に職位共同で講義を受け、職位別の演習を実施した後にひとつの会場に集まって演習を実施
復旧・復興	実務	「復興まちづくりイメージトレーニング」を通じて復興における課題を明確にし、「生活再建」と「市街地復興」の両方の視点から復興の在り方を学ぶ。 (第1期は実務担当・一般管理の合同で実施)
	一般	

● 職位別演習に関するアンケート結果（速報）

10月26日時点のアンケート結果（②災害への備え～⑥復旧・復興が対象）から、職位別アンケートについての項目を集計した。（最終的な集計は第4回検討会にて報告）

【コース別最終アンケート】 本コースの演習は、「実務担当」と「一般管理」の職位別に実施しました。自らの職位に合った内容が学べましたか？



■ 非常にそう思う ■ そう思う ■ どちらともいえない
■ あまりそう思わない ■ そう思わない

● 受講者意見(自由回答記述より抜粋)

(良かった点)

- ・ 同じような職位や立場の人の意見が聞けて良かった(11人)

(悪かった点、今後改善に向けたご要望等)

- ・ 事前に職位別に学べる内容や違いを知りたかった(11人)
- ・ 両方の職位の内容を学ぶべきではないか(4人)
- ・ 職位合同の研修があっても良いのではないかと(1人)
- ・ 実務担当の受講枠を増やしてはどうか(1人)
- ・ まずは実務担当コースを必修としてはどうか(1人)
- ・ 一般管理は災害対応経験未経験の人が議論しにくそうだった。災害対応経験も加味してはどうか(2人)

<被災者支援コース>

- ・ 異なる職位の人が最後に一堂に会して議論するのは面白かった(1人)

<復旧・復興コース>

- ・ 復興は幅広い知識と経験が必要なため、知識を持っていない人は議論が難しそうだった(1人)

● 令和5年度 第1期におけるリニューアルの現状と今後の対応

(職位別の演習の内容)

- 職位別の演習により同じような立場の受講生同士で意見交換でき、一定の評価は得られたものと考えられる。
- 一方で、職位別の演習内容の違い等を募集時点で示せていなかったことから、**どこに違いがあるのか、自分はどちらを受けるのが適正なのか判断しにくい状況**であったと考えられる。

➡ 対応：第2期募集時に第1期の実施状況を掲載

- 第2期の募集時に、受講生が迷わずコース選択ができるよう第1期で実施した演習内容（職位別）を掲載してはどうか。

(令和6年度に向けた職位別座学・演習の検討)

- **令和6年度からは演習に加えて座学も職位別に実施**する。第1期で実施した演習の結果を踏まえつつ、次年度に向けた検討を進める必要がある。

➡ 対応：コースコーディネーターとのワーキンググループを通じた検討

- 第1期の実施状況を踏まえ、次年度の職位別座学・演習の内容を検討する。
(復旧・復興では、コーディネーターより職位による分割が難しいとの意見あり。)

➡ 対応：被災者支援コース試行結果(職位別座学の分割)を他コースへ反映

- 被災者支援コースで「生活再建支援業務」を対象に、職位別座学の内容検討を進める予定。この試行結果を他コースにも反映してはどうか。

④ 職位別/地域防災マネージャーパッケージの実装

● リニューアル内容

効率的に学習できるように、複数コースをまとめて受講できる「職位別パッケージ」及び「地域防災マネージャーパッケージ」を募集した。なお、**パッケージ受講者が対面研修に連日で参加できるように、演習実施日を連日に設定した。**

パッケージ名	定員	優先的に受講できるコース	
実務担当パッケージ	30名	②災害への備え、③警報避難、④応急活動・資源管理 ⑤被災者支援、⑥復旧・復興	演習は実務担当
一般管理パッケージ	20名	②災害への備え、③警報避難、④応急活動・資源管理 ⑤被災者支援、⑥復旧・復興	演習は一般管理
上級管理パッケージ	10名	⑦指揮統制、⑧対策立案、⑨人材育成、⑩総合監理	
地域防災マネージャー パッケージ	15名	②災害への備え、③警報避難、④応急活動・資源管理 ⑤被災者支援、⑥復旧・復興	今期に受講 演習は一般管理
		⑦指揮統制、⑧対策立案、⑨人材育成、⑩総合監理	翌期に受講

● パッケージの申込状況

パッケージ名	応募者数	第1期 パッケージ申込	
		定員	倍率
実務担当パッケージ	7	30	0.23倍
一般管理パッケージ	11	20	0.55倍
上級管理パッケージ	6	10	0.60倍
地域防災マネージャー	7	15	0.47倍

● 令和5年度 第1期におけるリニューアルの現状と今後の対応

(応募状況)

- パッケージ受講者への配慮として、なるべく**連続して参加できるように演習実施日を連日に設定**した。
- 当初の予定していた申込数より半数程度の申込みとなった。
- **通常業務があるため、連日に設定されていたとしても参加が難しい**のではないかな。

➡ 対応：アンケートによる追加調査の実施

- パッケージの申込について、パッケージ申込の有効性、申込の希望、どのような実施形態なら参加できそうかな等、改善案をアンケート調査してはどうか。

⑤-1 人的ネットワーク構築の取組み（自主研修、全体交流会）

●リニューアル内容

本年度は、R1後期からR4までオンラインで実施していた演習を対面形式で実施することにした。それに伴い、対面演習と併せ、より受講者に満足いただけるよう、人的ネットワーク構築の取組みとして、自主研修、全体交流会を実施した。

項目	リニューアル内容
自主研修	<p>実務担当／一般管理の演習は、午前／午後の実施のため空き時間ができてしまうため、空き時間に受講できる任意参加の自主研修のコンテンツを用意した。</p> <p>「災害への備え」、「警報避難」、「応急活動・資源管理」の3コースで実施した。</p>
全体交流会	<p>お昼休みの時間に受講者間で交流できるようアナウンスを実施した。</p> <p>「災害への備え」、「応急活動・資源管理」では職位合同で質疑応答の時間を設けた。</p>

● 自主研修の実施内容

災害への備え、警報避難、応急活動・資源管理において実施した自主研修の取組みは下記のとおり。

コース名	取組み内容
災害への備え	セブンイレブンジャパンから防災に取り組む企業からの話題提供を頂き、その内容を踏まえて意見交換を行った。
警報避難	福知山市の事例紹介及び新潟地方気象台から防災気象情報の講義を頂き、その内容を踏まえて意見交換を行った
応急活動・資源管理	内閣府デジタル・物資支援担当者が「物資調達・輸送調整等支援システム」の操作説明等を行うとともに、システムに関する相談を受け付けた。

※被災者支援コース、復旧・復興コースは、実務担当・一般管理を同じ時間に実施したため、自主研修を行っていない

● 自主研修の様子



●全体交流（お昼休みの交流）の実施内容

各コースにおける全体交流（お昼休みの交流）の実施内容は以下のとおり。

コース名	取組み内容
災害への備え	事前にオンラインでいただいていた質問に回答する時間を設けた（職位合同で実施）。
応急活動・資源管理	
その他のコース	研修会場を開放し、自己紹介や名刺交換を進めていただくようアナウンスした。

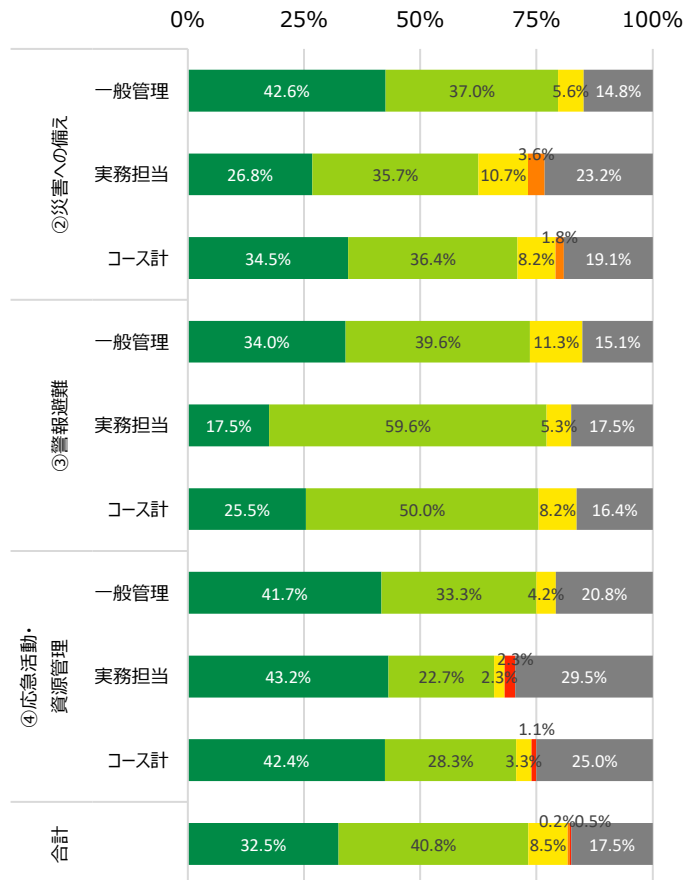
●全体交流（質疑応答）の様子



● 自主研修についてのアンケート結果（10月26日時点 速報）

Q 演習（対面）当日の「自主研修」の時間は、満足できる内容でしたか？

➔ 結果：内容は概ね好評だったと考えられるが、周知が遅かったことにより参加できなかった受講生も多かったものと思われる。



■ 非常にそう思う ■ そう思う ■ どちらともいえない
■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ 参加していない

● 受講者意見(自由回答記述より抜粋)

(良かった点)

- 普段聞けない話を聞いて参考になった(3人)
- [災害への備え] 他職種・他業種の防災の取組みを知れて良かった(1人)
- 前泊で参加したため空いた時間に受講できて良かった(1人)

(悪かった点、今後改善に向けたご要望)

- 早めに実施の有無、内容、時間等を周知して欲しい(5人)
- ディスカッションする時間を多く確保して欲しい(4人)
- 自己紹介や名刺交換の時間が多くあると良かった(2人)
- 前泊できないルールがあるため参加が難しかった(1人)
- 「自主研修」という名目では参加しづらい。カリキュラムに含めて欲しい(1人)

● 聞きたい、実施して欲しい内容など

- 被災経験職員による災害対応経験談
- オペレーションルームの見学ツアー
- 組織別(国、県、市町村等)の意見交換

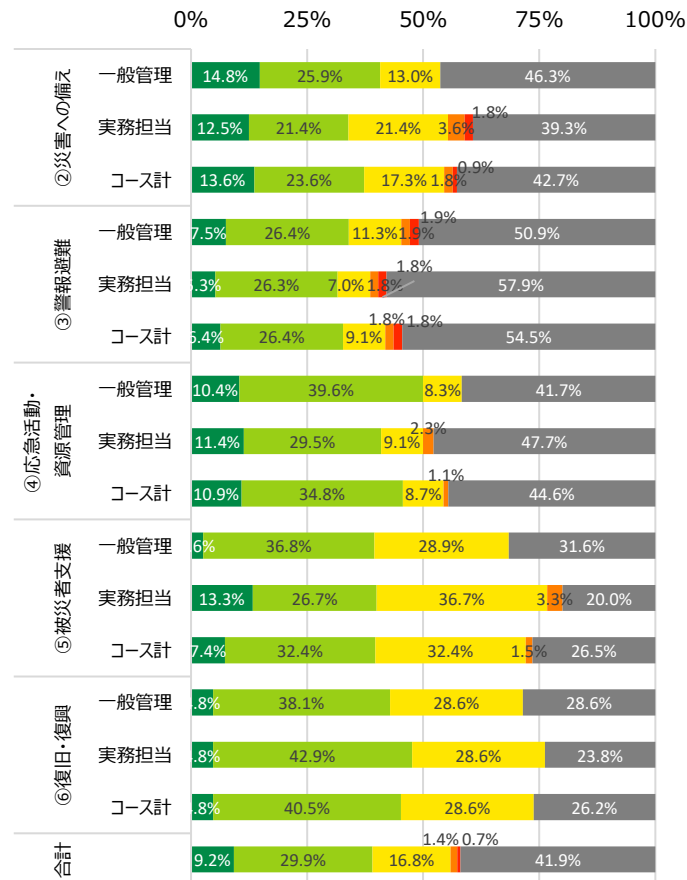
<被災者支援コース>

- ボランティアやNPO、被災者側のお話

● 全体交流についてのアンケート結果（10月26日時点 速報）

Q 演習（対面）当日の「全体交流（お昼休みの交流）」の時間は、満足できる内容でしたか？

➔ 結果：お昼休みに明示的に交流を促す取組みを行わなかったため、交流の時間が認知されていないように見受けられる。



● 受講者意見(自由回答記述より抜粋)

(悪かった点、今後改善に向けたご要望)

- 食堂で交流できる時間、スペースを確保してはどうか
- 全体交流の開始の5分程度でよいので、隣同士での名刺交換・挨拶の時間を設けてはどうか
- 周囲にいた参加者は、情報交換や今後の関係性を構築するために集まった方々とは言いにくい状況で交流できなかった。

■ 非常にそう思う
 ■ そう思う
 ■ どちらともいえない
■ あまりそう思わない
 ■ そう思わない
 ■ 参加していない

● 令和5年度 第1期におけるリニューアルの現状と今後の対応

（自主研修）

- 参加できた受講生からは、**普段聞けない話を聞いて参考となった**という意見があった。
- 直前まで実施に向けた調整を行っていたため、**実施の内容や時間の周知の遅れ**が生じ、スケジュールの都合などにより参加できなかった方が多かったと思われる。
- また、**参加に前泊を必要とする受講生は参加しにくかった**と考えられる。

➡ 対応：早期に実施内容と時間を周知

- ・ 可能であれば第2期の募集段階から内容と時間を受講生に周知する。

（全体交流）

- 全体交流の時間を**カリキュラムに明示的に設定しておらず**、交流できる時間だと認知されていなかったと考えられる。
- #### ➡ 対応：カリキュラムに全体交流会の時間の組み込み
- ・ カリキュラムに明示的に名刺交換や自己紹介を行う時間として確保していること、積極的に参加して欲しいことを明記してはどうか。

⑤-2 人的ネットワーク構築の取組み

（オンライン掲示板、オープニング交流会、自由交流会）

●リニューアル内容

より一層の交流の機会・場を設けるために、オンライン掲示板の設置、オープニング交流会の実施、自由交流会の実施を行った。

項目	リニューアル内容
オンライン 掲示板	<p>オンデマンド座学開始時から、自己紹介や講義内容について共有・相談できる掲示板を設置した。</p> <p>【設置した掲示板】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介（班別に） ・講義内容の共有・相談（単元別に） ・フリートーク
オープニング 交流会	<p>LMSの受講開始後2日以内に、オンラインで任意参加のオープニング交流会を実施した（※現時点ではアンケート結果なし）。</p> <p>【オープニング交流会の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内閣府からの趣旨説明 ・コースコーディネーターからのコース概要説明 ・オンライン掲示板の利用方法説明
自由交流会	<p>研修修了後に施設外の会場で任意参加の交流会を実施した。</p>

●オンライン掲示板の実施状況

学習支援システム（LMS）の掲示板機能を利用し、受講生同士で交流できる掲示板を設置した。各コースに設置したトピックと書き込み内容は以下のとおり。

取組み	設置タイミング	主な書き込み内容	書込数 コース全体
自己紹介トピック (演習班別に設置)	班割決定次第 (演習1週間～3日前)	以下の内容を書き込んでいただくよう案内 <ul style="list-style-type: none"> ・氏名（その他、受講者に共有して良いパーソナルデータ） ・所属組織・部署（内防OJT研修員は親元の情報） ・受講動機（コースを受講した理由、特に学びたいこと、など） ・災害対応経験等（演習の際に班内で共有・活用できる知見、など） 	90
講義内容相談トピック (単元別に設置)	LMS開始直後	以下の内容を書き込んでいただくよう案内 <ul style="list-style-type: none"> ・講義の内容で分からなかったこと ・講義の内容に関する意見等 ・そのほか、講義に関連して他の受講者に質問したいこと 	0
フリートーク (コース別、職位別に設置)	LMS開始直後	上記に関わらず、自由に話せるトピック	14

● オープニング交流会の実施状況

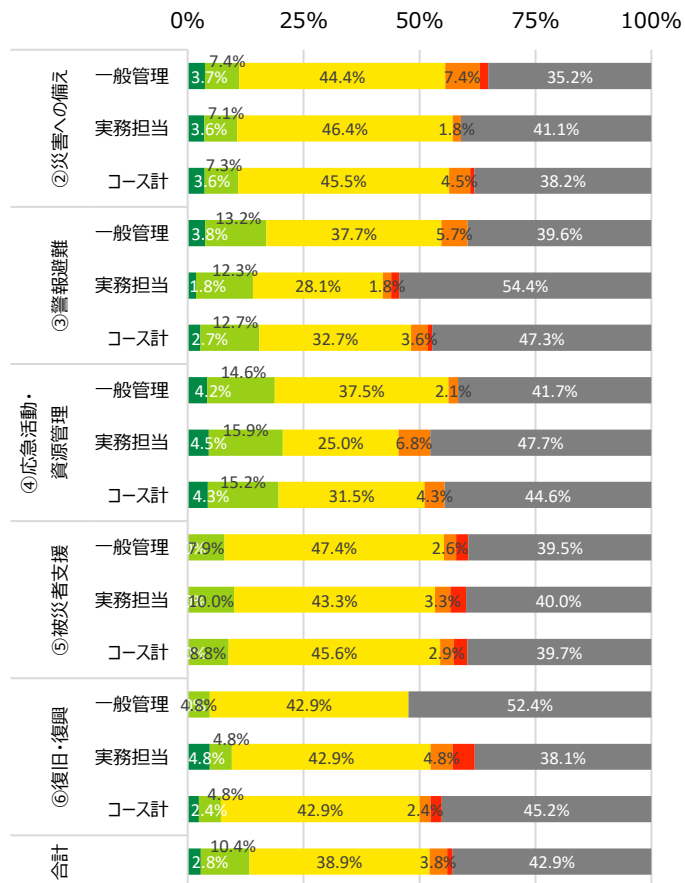
学習支援システム（LMS）開始後2日以内にWeb会議システムを用いたオンライン形式でオープニング交流会を実施した。

コース名	LMS 公開日	OP交流会 実施日	参加者数	受講者数	参加率
災害への備え	9/19	9/19	21	120	17.5%
警報避難	9/19	9/20	12	119	10.1%
応急活動・資源管理	9/19	9/20	15	107	14.0%
被災者支援	9/11	9/13	13	77	16.9%
復旧・復興	9/11	未実施	—	—	—
指揮統制	9/25	9/25	8	34	23.5%
対策立案	9/25	9/25	9	47	19.1%
人材育成	9/25	9/27	7	29	24.1%
総合監理	9/25	9/25	4	23	17.4%

● オンライン掲示板についてのアンケート結果（10月26日時点 速報）

Q 「オンライン掲示板」による交流は、満足できる内容でしたか？

➔ 結果：「どちらともいえない」「参加していない」が非常に多いことから、ほとんどの受講生に認知、利用されていなかったと考えられる。



● 受講者意見(自由回答記述より抜粋)

<共通>

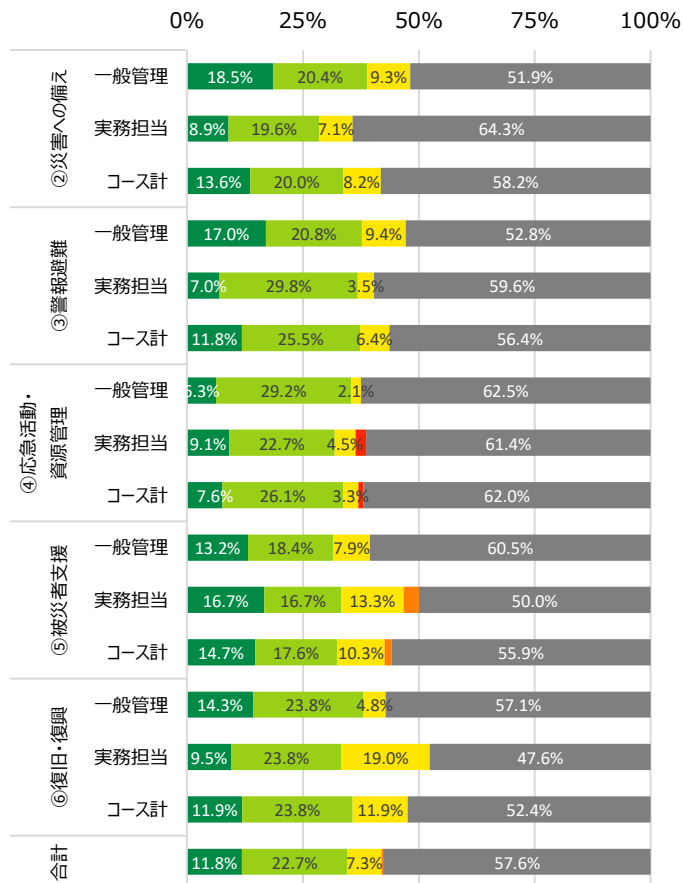
- 利用者が少なかった(10人)
- 早めに周知、利用できるようにして欲しい(5人)
- 掲示板の種類が多すぎる(5人)
- 研修後にも普段から利用できる掲示板として残して欲しい(1人)

■ 非常にそう思う
 ■ そう思う
 ■ どちらともいえない
■ あまりそう思わない
 ■ そう思わない
 ■ 参加していない

● 自由交流会についてのアンケート結果（10月26日時点 速報）

Q 演習（対面）当日の「自由交流（研修後の交流）」の時間は、満足できる内容でしたか？

➔ 結果：各コースにおいて、約2割の受講生が自由交流会に参加された。参加した受講生からは概ね好評だったと考えられる。



● 受講者意見(自由回答記述より抜粋)

<共通>

- ・ 会場が狭かった。
- ・ 組織別(国、県、市町村)に分けた交流もしたかった

■ 非常にそう思う ■ そう思う ■ どちらともいえない
 ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ 参加していない

● 令和5年度 第1期におけるリニューアルの現状と今後の対応

（各取組み全般について）

- いずれの取組みも**周知タイミングがLMSの開始前後と直前だったため、十分に受講生に伝わっていなかった**ものと考えられる。
- そのため、いずれも利用率、参加率が非常に低かった。
- また、**実施する内容を十分に検討できておらず、結果として有効な取組みが実施できなかった**。

➡ 対応：オンライン掲示板、オープニング交流会の取組みを再検討

- ・ 各取組みにおける、交流の目的、得られる効果、事務的な負担等を改めて検討し、効果的な取組みとなるよう見直しを図る。

（自由交流会）

- 各コースで研修修了後に自由交流会が開催され、密な交流が行われた。
- **約2割程度の受講者が自由交流会に参加**された。

➡ 対応：自由交流会の継続

- ・ 自由交流会は今後も継続する。

3. 第1期の応募・修了状況

● 応募・修了状況

・一般枠、パッケージ枠、OJT研修員枠を合わせたコース別の申込数の合計

2023.10.26集計時点
LMSは10月31日まで公開

コース名	第1期 申込・修了状況						R4 第2期				
	応募者数 (a)	定員 (b)	倍率 (a) / (b)	受講者 数	修了者 数	修了率	応募者数 (c)	倍率 (c) / 60	修了率		
防災基礎	789	—	—	786	279	37.8%	141	2.35倍	91.7%		
災害対策	②災害への備え	実務担当	67	60	1.12倍	60	55	91.7%	133	2.22倍	91.7%
		一般管理	71	60	1.18倍	60	54	90.0%			
	③警報避難	実務担当	59	60	0.98倍	59	54	91.5%	98	1.63倍	93.3%
		一般管理	61	60	1.02倍	60	52	86.7%			
	④応急活動・資源管理	実務担当	49	60	0.82倍	49	41	83.7%	92	1.53倍	93.3%
		一般管理	58	60	0.97倍	58	48	82.8%			
	⑤被災者支援	実務担当	33	60	0.55倍	33	30	90.9%	92	1.53倍	91.7%
		一般管理	44	60	0.73倍	44	37	84.1%			
	⑥復旧・復興	実務担当	26	60	0.43倍	26	22	84.6%	55	0.92倍	89.1%
		一般管理	26	60	0.43倍	26	21	80.8%			
組織運営	⑦指揮統制	上級管理	34	60	0.57倍	34	28	82.4%	74	1.23倍	86.7%
	⑧対策立案	上級管理	47	60	0.78倍	47	30	63.8%	93	1.55倍	85.0%
	⑨人材育成	上級管理	29	60	0.48倍	29	23	79.3%	55	0.92倍	81.7%
	⑩総合監理	上級管理	23	60	0.38倍	23	18	78.3%	58	0.97倍	93.1%
②～⑨の合計			627	840	0.75倍	608	513	84.4%	891	1.49倍	89.7%

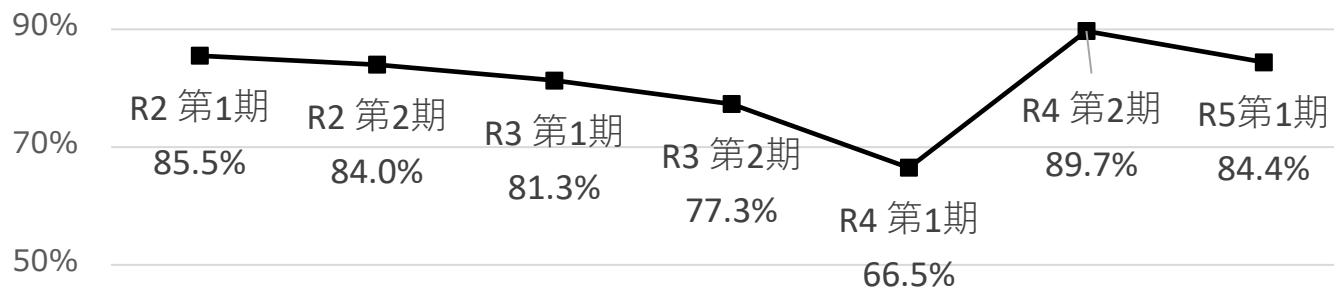
●令和5年度 第1期までの修了状況の推移

・R5第1期は、職位別の受講者を合算した修了率。

2023.10.26集計時点
LMSは10月31日まで公開

コース名	R2 第1期	R2 第2期	R3 第1期	R3 第2期	R4 第1期	R4 第2期	R5第1期
①防災基礎	83.3%	90.0%	86.7%	76.6%	62.7%	91.7%	—
②災害への備え	90.0%	83.3%	90.0%	71.7%	72.9%	91.7%	90.8%
③警報避難	81.7%	90.0%	81.6%	71.7%	65.0%	93.3%	89.1%
④応急活動・資源管理	81.7%	80.0%	93.3%	83.3%	69.5%	93.3%	83.2%
⑤被災者支援	85.0%	81.7%	78.3%	73.3%	70.0%	91.7%	87.0%
⑥復旧・復興	90.0%	78.3%	66.6%	76.6%	56.7%	89.1%	82.7%
⑦指揮統制	91.7%	78.3%	83.3%	80.0%	56.7%	86.7%	82.4%
⑧対策立案	81.7%	83.3%	75.0%	75.0%	75.0%	85.0%	63.8%
⑨人材育成	81.7%	83.3%	85.0%	81.6%	70.0%	81.7%	79.3%
⑩総合監理	88.3%	91.7%	73.3%	83.3%	66.7%	93.1%	78.3%
平均	85.5%	84.0%	81.3%	77.3%	66.5%	89.7%	84.4%

※R5平均は防災基礎を除く

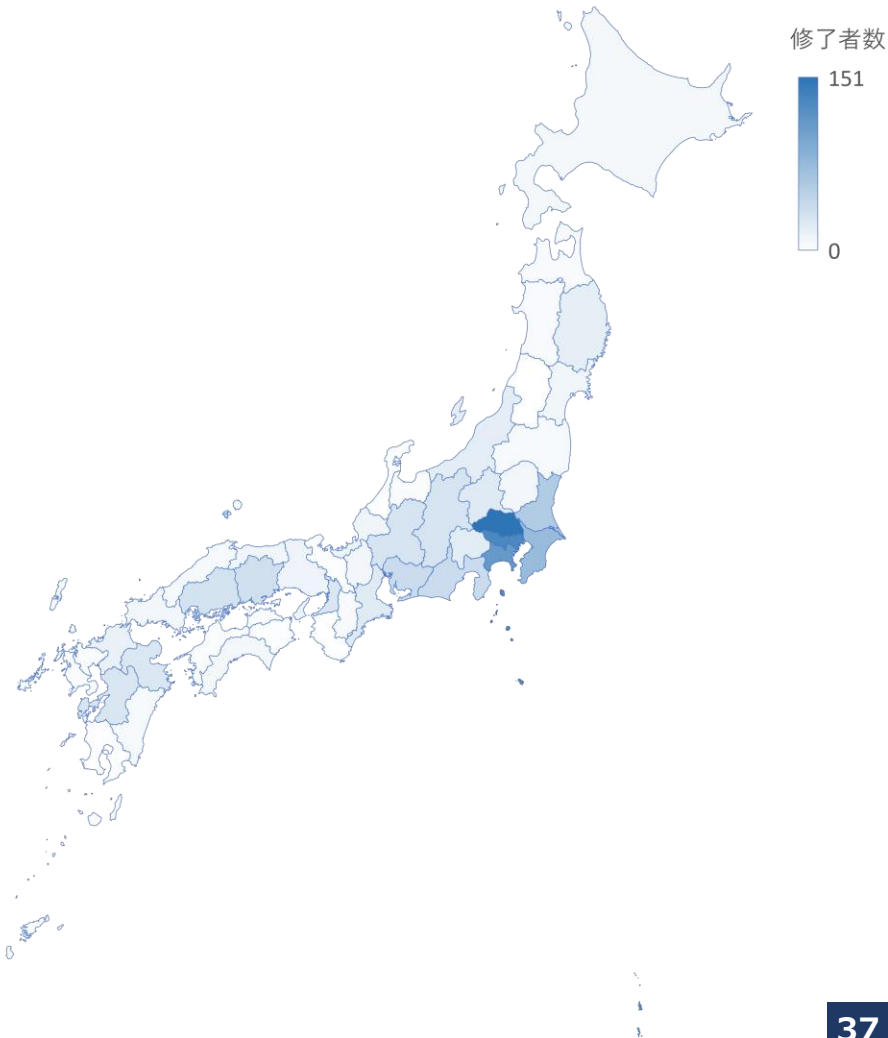
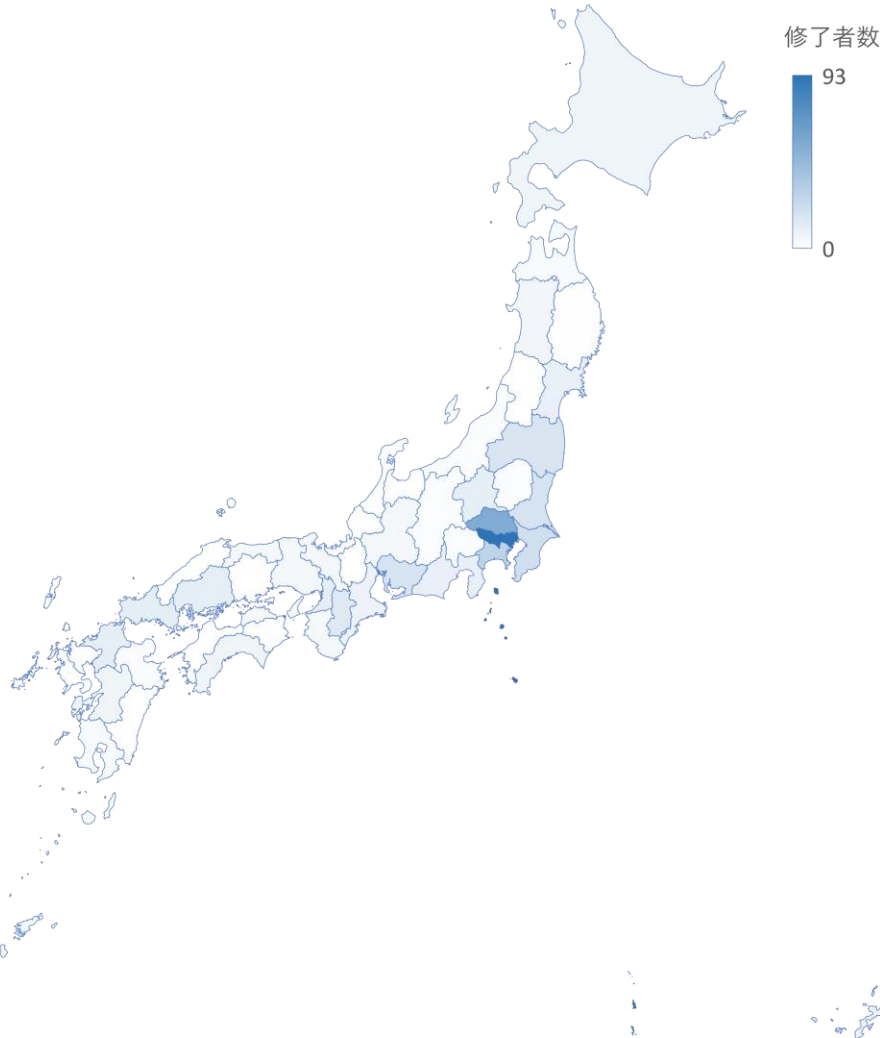


●都道府県別の受講状況

- 都道府県別の受講者数を地図に整理した。
- 有明の丘研修の市区町村の受講者は、**関東圏からの受講生が多い**といえる。

令和5年度 第1期

参考：令和元年度 第1期



●令和5年度第1期における応募の現状と今後の対応

第1期における応募の現状とその原因、第2期に向けた対応は次のとおり。

(第1期における応募の現状)

- 防災基礎を除く9コースで前年度第2期からの応募者数減少が見られる。
- 特に組織運営4コースでは前年度第2期の半数以下の応募者数となった。
- これまで高い受講倍率で受講しにくかったコース（特に災害対策5コース）は、定員増に伴い受講しやすくなった。

原因の予測：R5.5月の新型コロナウイルスの「5類感染症」移行後に、対面演習とする判断をし、募集を行ったため、自治体の予算確保が間に合わなかったのではないか。

➡ 対応：令和6年度の開催に向けた早期の周知

- ・自治体の予算確保時期を考慮し、前年12月末頃に概略の日程、開催方法等を周知する。

➡ 対応：第2期の実施日及び開催方法（対面研修）の周知

- ・ホームページ及びメールマガジンで第2期の実施日及び開催方法を早期に掲載する。

➡ 対応：関係省庁等と連携して防災部局以外にも周知

- ・防災部局以外の部署にも周知できるよう関係省庁等と連携して積極的に発信する。
→第1期の募集において国交省と連携して自治体の土木部局に復旧・復興コースの受講を促したところ、10名程度の追加応募が見られた。

➡ 対応：研修受講に関するアンケート調査の実施

- ・防災基礎コース受講者のうち、対面研修を受講しなかった受講生を対象として、対面研修に参加できなかった理由（予算確保、職場体制、上司の理解等）を調査する。

4. 受講目的等のアンケート調査

● 受講目的等のアンケートについて

第2回検討会で示した内容について、第1期にアンケート調査を行った。

(第1回企画検討会)

- ・ 有明の丘研修の受講形態は、職位別パッケージや地域防災マネージャーパッケージの導入により多様化する。修了者に受講の目的、内容、方法等を調査し、今後の受講者に情報提供してはどうか。

➤ 対応：受講終了後のアンケート調査の拡充

- ・ 有明の丘研修のリニューアルにあわせ、研修修了後に実施している最終アンケートにおいて、**受講の目的・理由、学んだ内容等について確認する質問事項を加えてはどうか。**

参考：企画検討会（第2回）資料より

➡ 終了後アンケートに以下の設問を追加

- ・ 学びたかった興味・関心事項
- ・ 研修を通じて学べたこと
- ・ 今後どのような業務にどう生かすか

➡ 好事例があれば必要に応じて追加ヒアリング等を行い、「受講者からの声」として周知・広報に活用する。

● 回答結果（10月26日集計時点）

10月26日時点のアンケート結果（②災害への備え～⑥復旧・復興が対象）から、代表的な事例をいくつか抜粋する（全体集計は第4回検討会にて報告）。

【受講者の声】

■ 受講コース

災害への備え

■ 学びたかった興味・関心事項

住民の高齢化、コミュニティの希薄化などに対し公務員数の減少（公助の限界）など、全国共通の課題として共助と自助の重要性が増しているが、罹災経験の少ない都市部として**罹災経験自治体の事例などから住民の防災意識の向上に向けた方策を学びたい**と思ったため。

■ 研修を通じて学べたこと

現に**災害対応を行っている自治体の方などから、実態をお聞きすることができ、また近隣自治体と顔の見える・助け合う関係を築くことができ**、大いに勉強となった。

■ 学んだ内容を今後どのように業務にどう生かすか

オンデマンドやワークショップで学んだことはもちろん、参加者同士のコミュニケーションを通して紹介していただけた全国防災関係者のSNSグループや勉強会を通して今後共有していけることも含めて、学びを深めて研鑽を積んでいきたい。

【受講者の声】

■ 受講コース

警報避難

■ 学びたかった興味・関心事項

本県は降雨量が全国で最下位で、県土は領家花崗岩類が基盤でマサが露呈している山地が多数あるので、降雨災害や土砂災害には非常に脆弱です。また近年の線状降水帯による降雨が場所を問わず発生し、多数の方が命を失ってる実情から**避難に関する情報を住民に的確に伝えるかを学びたかった**からです。

■ 研修を通じて学べたこと

線状降水帯は台風等の数日前から予測可能で事前の準備や対策が出来るものでないので、場当たりの発生し、それに対応しなければならないが、予測が困難であることを知ることができ、あらゆることを**先手で打つことの大切さや住民対応に関する事柄を知ることができた**。

■ 学んだ内容を今後どのように業務にどう生かすか

今後は、これまで学んだことを減災対策や災害対応業務に従事するため、**現在の所属から災害対応部局への異動や市町へ出向し住民の安全に寄与したい**と考えています。

【受講者の声】

■ 受講コース

警報避難

■ 学びたかった興味・関心事項

業務で要配慮者（人工呼吸装着の在宅療養患者）災害担当を行っているが、基本的な知識や専門知識を学びたいと思い受講した。また、業務では他の自治体職員と情報交換ができる機会がなかったので、本コースの演習に興味があった。

■ 研修を通じて学べたこと

様々な所属の方と意見交換しながら演習に取り組んだ。

都道府県職員のため、**市町村がどのように考えているのか、警報発令の判断などを知ることができた。**

■ 学んだ内容を今後どのように業務にどう生かすか

人工呼吸器等を装着している患者は個別避難計画作成を希望しても自力避難不可、家族での避難も難しく、複数の医療機器を使用しているため電源確保の問題があり、避難先の調整に難航する。

今回学んだ知識を活かし、**市町村にきちんと対応してもらえるよう早速働きかけていきたい。**

【受講者の声】

■ 受講コース

応急活動・資源管理

■ 学びたかった興味・関心事項

青森県では、自前の備蓄倉庫がないため、指定避難所となっている県立高校等に食料や毛布等を備蓄しているところですが、（財政から新設ではなく、既存施設での保管と言われているため。）しかしながら、**人力での搬出入が考慮されていないため、発災時の効率的な備蓄物資の搬出入について学びたい**と考えたためです。

■ 研修を通じて学べたこと

やはり**民間事業者のロジスティックスマネジメントが効果的であることから、協定事業者へ速やかに輸配送等を依頼できるような体制を構築することが重要であると再認識**した。

■ 学んだ内容を今後どのように業務にどう生かすか

現在、備蓄物資の保管及び輸配送について、**佐川急便や日本郵政との打合せを実施・検討していることから、今後の打合せの参考**としたい。

5. 多肢選択テスト作成マニュアルの改善

防災基礎コースの実施にあたり各講義の担当者にテストの作成を依頼した。テスト作成者から頂いたご意見等を踏まえて、マニュアルの改善を図る。

●多肢選択テスト作成の課題（作成からの意見等）

■テストの作成者からのご意見

- 法令の条文や計画文章をそのまま使うと、設問文や選択肢として読みづらいものとなる。口語調への言い換えなどを適切に行う必要がある。
- 数値や曖昧な表現が設問文や選択肢に入ると、本質的に問いたい部分とは異なる箇所、回答者が正誤の判断をする可能性があるため、可能な限り数値や曖昧な表現を避けるべきである。
- 長い文章を選択肢にするとどこに正誤があるのか分かりにくい。
- 講義担当者に出題箇所のみを確認し事務局が作問を代行するのは非常に難しく、時間が掛かる。マニュアルで具体的な作問方法を提示して講義担当者に作問だけするようにしてはどうか。

■正答を選ばせる作問方法の追加（第2回企画検討会より）

（第2回企画検討会：木村委員より）

- 確認テストは、「正答を選ばせる」ものが受講生の理解を適切に測る設問となって作問しやすい。4つの選択肢が、「正しい答え」、「主語（主部）が間違っている」「述語（述部）が間違っている」、「見当違いの答え」とするなど、ルールを明確化してはどうか。

➡ 令和6年度の全コース多肢選択テスト化に向けて、専門家を交えたワーキンググループを実施しマニュアル内容の適正化を図ってはどうか

●多肢選択テスト作成マニュアルの見直しに向けた取組み

■専門的な知見を持つ委員とのワーキンググループの実施

- ・テスト問題作成に専門的な知見を持つ、奈良委員、木村委員を交えたワーキンググループを開催し、ご意見を頂きながらマニュアルの改善を図る。

【ワーキングでの検討事項（案）】

- ・第1期実施のテスト結果を踏まえた分析、参考となる例文の抽出
- ・講師に対して多肢選択テストの目的、達成目標等を理解いただくためのテストの位置づけ検討
- ・講師が作問できるためのマニュアル（概要版、参考例文、手順等）の検討 等

【第1回WG（R5.10.18）での主なご意見】

- ・ **マニュアルにテストの目的や達成度目標等が明示されていない**ことから、講師がどのようなテストを作成すれば良いか迷われたのではないかと。
- ・ 第1期の問題の中から**参考となる良問を抽出し、作問の例文**として整理してはどうか。

■多肢選択テスト作成に係る今後のスケジュール（案）

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
第1期実施のテスト結果の分析、参考となる例文の抽出	▶	▶									
目的、達成目標等を理解いただくためのテストの位置づけ検討	WG	▶	WG		WG	▶					
講師が作問できるためのマニュアル（概要版、参考例文、手順等）の検討			▶	▶	▶	▶					
(次年度) 講義資料作成・テスト作問								▶	▶	▶	▶
(次年度) 事務局・コーディネーターの確認										▶	▶